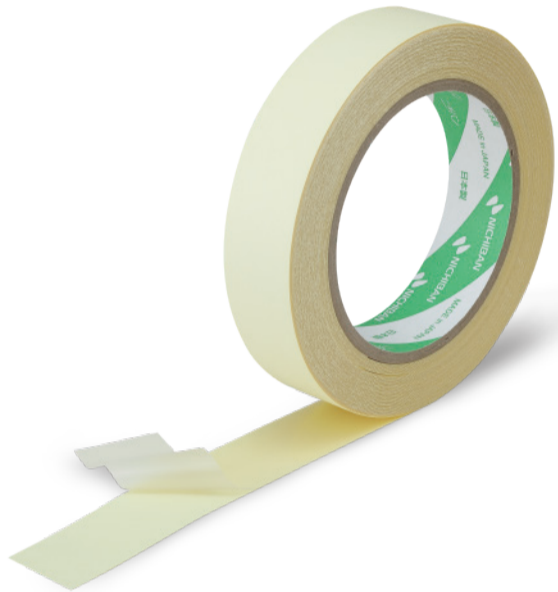




NICHIBAN

シールテープ せこたん™ 補強用 CS-5020

取扱説明書



ニチバン株式会社

低圧注入工法用「シール材」



せこたん™ 補強用



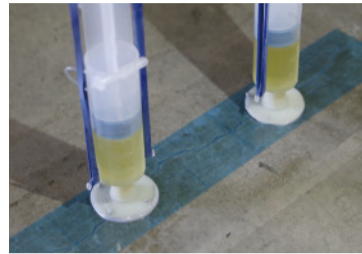
せこたん™



せこたん™ 専用プライマー

シールテープ せこたん™ 補強用 CS-5020とは

シールテープせこたん™補強用CS-5020(以下、補強テープ)は、従来のシールテープせこたん™CS-5010の下貼りとして併用することで、同シールテープ単独では適応外であった粗面の目止めを可能にする、せこたん™専用の補強テープです。



シールテープのみの使用例



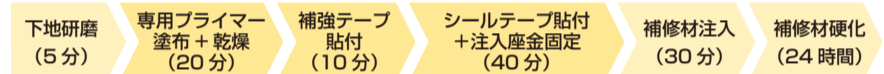
シールテープ+補強テープの使用例

特長

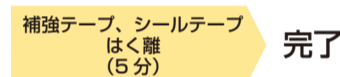
- 柔軟性があり、従来のシールテープよりも躯体の凹凸や、曲がったひびにも追従して貼付することができる。
- 上から従来のシールテープを貼付・重ね貼りした後も透明性があり、補修材の注入状況を確認できる。
- 重ね貼りしたシールテープと一体化、同時にはく離・撤去できる。

施工時間の目安

■ 施工 1 日目



■ 施工 2 日目



【条件】直線ひび割れ3mの施工(施工時期:春・秋の場合)
 ※施工場所、気温による養生時間の変化等により、施工時間は変動します。
 ※躯体の状態により、専用プライマーを使わない場合は、施工時間は短くなります。

ご使用いただく前に

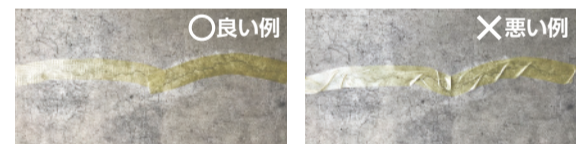
保管上の注意

- 子どもの手の届かない場所に保管してください。
- 高温多湿を避け、直接日光の当たらない場所に保管してください。

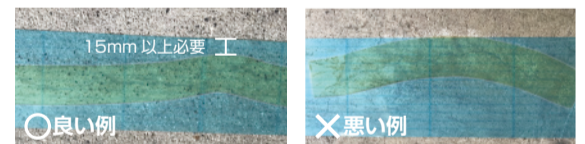
使用上の注意

- 本来の用途以外には使用しないでください。
- 補強テープ単独では使用しないでください。
- エポキシ樹脂系補修材を注入してください。
- 5~40℃の温度条件下で使用してください。
- 下地が濡れている場合はよく乾燥させてください。
- 下地処理を実施してください。
- スクレーパーで突起、汚れ等を削ぎ取ってください。
 ※経年コンクリート、新設コンクリートにかかわらず、汚れや白華等の粉体が付着している面に補強テープやシールテープを貼付しても十分な粘着力は発現されませんので、清掃してから貼付してください。
- 必要に応じて専用プライマー塗布を実施してください。
 ※せこたん™専用プライマーCSP-5000は、水系非硬化型のプライマーで、コンクリート素地専用です。躯体表面が塗装、撥水処理等されている場合は使用できません。
 ※また、コンクリート素地であっても、微細な隙間の多い表面では、塗布しても吸い込まれて表面に留まらず、改善効果が出ない場合があります。事前に目立たない箇所でも効果を確認の上、使用してください。
 ※躯体についた塗り跡は、補強テープ、シールテープをはく離した後に水拭きすれば、基本的に除去可能ですが、事前に目立たない箇所でも確認の上、使用してください。

- テープを貼付する際は、以下の点にご注意ください。
- 補強テープはシワが入らないように貼付してください。
 ※シワ部分が補修材の流路になり、漏れの原因となります。



- 補強テープ上にシールテープを重ね貼りする際、ひびがシールテープの端から15mm以上内側に収まるよう貼付してください。



- 補強テープを下貼りした境界、増し貼り、継ぎ貼り段差部や、ひび周辺は、隙間が残らないようシールテープの上から硬質のヘラ等で強く圧着してください。



- 補強テープ及びシールテープは、貼り続けると粘着剤残留し易くなります。貼付から4日以内にはく離・撤去してください。
- はく離後は必要に応じて後処理を行なってください。

※補強テープまたは粘着剤の残留については、ニチバンテープはがし強力タイプTH-K220を噴き付け、2~3分馴染ませた上で、スクレーパーで削ぎ取ってください。
 ※補強テープの残留については、躯体表面に対して出来るだけ浅い角度でゆっくりと引っ張って伸ばすことで撤去できる場合もあります。



本品は使用方法・使用条件(表面状態や段差等)によって本来の性能を発揮できない可能性があります。事前に目的の用途に適合するか必ず確認の上、ご使用ください。

施工手順

せこたん™のシール性能は、施工方法に影響を受けます。事前に本取扱説明書を読んで使用方法を十分に確認の上、ご使用ください。

1



下地研磨

- ・スクレーパーで突起、汚れ等削ぎ取り。
- ・過度に粗い面はディスクサンダーで下地研磨。

注) 表面粗さRa=6μm以下はシールテープ、Ra=7~11μmは補強テープとシールテープ併用、Ra=12μm以上はディスクサンダーで下地研磨後、補強テープとシールテープ併用して使用。
※表面粗さRaの目安：サンドペーパー#1000は6μm、#360は11μm程度。塗装型枠で打設した躯体は2~3μm。



2



削り粉清掃

注) ウェスやエアブラシで削り粉を除去。
※塗装面、撥水処理面や、プライマー塗布で粘着力改善効果が確認できない場合、塗り跡を水拭きで除去できない場合は、プライマー塗布なしで補強テープ、シールテープを貼付してください。

プライマー塗布効果を確認出来る場合

プライマー塗布

- ・刷毛で塗布。
- ・原液をそのまま塗布。



注) コンクリート素地専用。
※塗装面、撥水処理面には使用しないでください。
※躯体に塗れ色がつく程度に塗布してください。
※乾燥時間は、春~秋15分、冬30分程度です。

プライマー塗布効果を確認出来ない場合

3



補強テープ貼付と印つけ

- ・片手で圧着しながら、逆の手で引っ張って方向を調整、ひびに追従するように伸ばしながら仮貼付後、ゴムローラーで強く圧着。
- ・油性ペンで注入穿孔位置に印つけ。

注) 補強テープにシワが入ると補修材漏れの切欠となり易い。
※方向を調整する際、躯体表面に対して出来るだけ浅い角度で引っ張ることにより、シワが少なく補強テープを仮貼付できます。



4



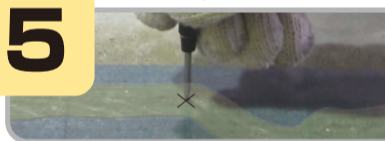
シールテープ貼付

- ・布切れや軍手を丸めたもの等、滑りやすいもので背面を押さえながら滑らせ、補強テープの上に重ね貼りして仮貼付。
- ・硬質ヘラ等を使い強く圧着。

注) 一方から背面を押さえ滑らし、空気を抜きながらシワが入らないよう仮圧着。
注) ひび周辺や粗い部分、重ね貼り段差、袋貼り折曲部分、補強テープ下貼り境界部分は硬質ヘラを立てた状態でしごくように強く圧着。
注) さらにゴムローラーで強く圧着するとしっかり密着。



5



注入孔の穿孔

- ・注入座金を固定する位置(印つけた穿孔箇所)で、カッターナイフ、ポンチ等を用い、シールテープ、補強テープをまとめて穿孔。

6



注入座金取り付け

- ・速硬化型接着剤で注入座金を固定。
※速硬化型接着剤の注意事項、使用方法、養生時間は、各取扱説明書の記載内容に従ってください。

注) シールテープ背面を研磨紙等で目粗しする、汚れをシンナー等で拭き取る、注入座金端部の上からも速硬化接着剤を塗布、被覆すること等で、注入座金の固定性が向上。
注) 注入座金固定に使用の速硬化型接着剤の余りでシール補強。
※段差が大きく、補強テープ、シールテープが追従しにくい部分は速硬化型接着剤等で補強してください。



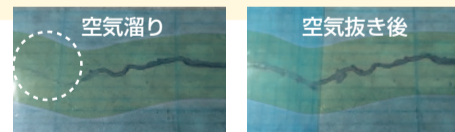
7



補修材注入と充填状況確認

- ・低圧注入工法でエポキシ樹脂を注入。
- ・シールテープ背面から充填状況視認。

注) 空気溜りがあれば、空気溜り上のシールテープ、補強テープを穿孔、空気抜き後、シールテープを重ね貼りして封止。
注) 補強テープ及びシールテープが膨らんだ場合、注入圧を下げる。



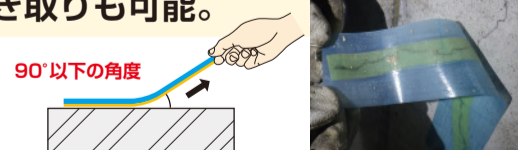
8



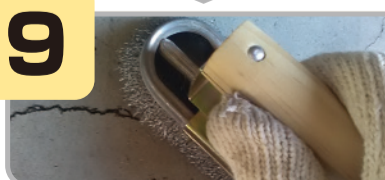
シールテープ、補強テープ除去

- ・シールテープと補強テープを一緒に除去可能。
- ・スクレーパーで削ぎ取りも可能。

注) 90°以下の浅い角度でゆっくり剥がす。
※高速で剥がすと糊残り、深い角度で剥がすと基材切れの可能性があります。
注) シールテープ、補強テープは貼付後、4日以内にはく離・撤去。



9



後処理

- ・補強テープ、粘着剤の残留は、ニチバンテープはがし強力タイプTH-K220を噴き付け、2~3分馴染ませた上で、スクレーパーで削ぎ取り。
- ・貼り跡は、金属ブラシ、スクレーパーで削ぎ取り。